

「いばらき総文 2014」に参加して

茨城県立緑岡高等学校 2年 今野 遼平

私は水戸市の県武道館で行われたいばらき総文 2014 囲碁部門に出場しました。1年生の時は規定で高校生の大会は出場できなかったのですが、今回が初めての高総文祭の大舞台となりました。

高総文祭直前に東京で行われた全国高校囲碁選手権大会では4位だったので、今回はそれ以上の成績を残すことが目標でした。私はこれまで大人の大会には結構出ており、対局経験なら負けなと思っていました。ただ、高校生と全国大会で碁を打つ機会は今までなく、それが不安でもありました。実際、高校囲碁選手権大会の時の対戦相手は読みが速い上に、粘り強く、大人とはまた違う強さがありました。

そして、高総文祭の1日目が始まりました。選手代表としての開会式での選手宣誓も、対局も不思議と緊張感はありませんでした。やはり地元だったからでしょうか。今回は2日間で6局を打つという長期戦です。息が切れたらそこでおしまいですが、私はあろうことか1日目の最後の対局で負けてしまいました。その日の夜はとても悔しく本当に辛かったです。ただ、「2日目に引きずるのだけはよそう」と思って気持ちを切り替えました。

2日目はとにかく最善を尽くそうと努力しました。全ての対局を5勝1敗で打ち終わりました。6人が5勝1敗で並ぶ混戦となり、順位は対戦相手の勝ち数の総和（SOS）で決まることになりました。その結果は思いもなかった準優勝でした。信じられませんが、それはまた、これまで努力し続けてよかったと思えた瞬間でもありました。

ここまでやったのも、私を支えてくださった多くの周りの方々のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。この高総文祭での経験を生かして、今後も今まで以上に成長していきたいと思っています。

「いばらき総文 2014」

茨城県立下妻第一高等学校 3年 飯山 春佳

私は、今年の高総文祭が茨城県で開催されると聞いた時、去年参加した長崎大会以上のものにできるように頑張ろうと思いました。

前日に会場の準備をしている間は高総文祭が始まるという実感があまりないままでしたが、次の日大勢の人が会場に集まってくるのを見た時、実感や期待をするのと同時に不安も込み上げてきました。実際に対局が始まってみると、どの盤でも熱戦が繰り広げられており、私自身も適度に緊張しながらも楽しんで対局することができました。私は団体戦の三将として出場し、団体としては3勝しましたが、私は1勝しかすることができずとても悔しい思いをしました。しかし、対局の合間には対局した人と囲碁について語り合ったり、局後の検討をしたりなど、普段ではなかなかできない体験をすることができました。他の対局では自分や身近な人とは違った打ち方などを観ることができ、楽しみながら勉強になりました。

高総文祭の中で私が一番心に残ったことは、選手宣誓をしたことです。宣誓をすることが決まってから打ち合わせ、リハーサルなどの間中、そして当日もかなり緊張していました。そして本番。選手代表としてもう一人の選手と一緒に無事宣誓を終えることができ、ほっとしました。結果として、高総文祭全体も成功し、本当に貴重な良い体験をさせていただきました。

最後に、私は47年に一度の茨城県の高総文祭に生徒実行委員会委員として、選手として参加できた幸運をよこび、また支えてくれた方々に心から感謝しています。



対局の様子Ⅰ（序盤）



対局の様子Ⅱ（石を手に）



対局の様子Ⅲ（着手の瞬間）



対局の様子Ⅳ（終盤）